

元気からだ! Q&A

高齢者の肺炎球菌ワクチンについて

東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科

寺嶋 毅 医師

Q 肺炎球菌ワクチンとは？

A 肺炎の原因病原体のうち3分の1は肺炎球菌です。この細菌に対する予防効果を高める手段が肺炎球菌ワクチンで、PPSV23（商品名はニューモバックスNP）とPCV13（商品名はプレバナー13）の2種類があります。PPSV23はカバーする範囲が広く、PCV13は効果が長持ちすることが特徴です。ワクチンによって作られた抗体がカバーする範囲の肺炎に対して、PPSV23では33%、PCV13では45%の予防効果が報告されています。

Q なぜ65歳からワクチン接種が必要なの？

A 2017年の統計では死亡原因の第5位は肺炎で、肺炎による死亡者の95%は65歳以上の高齢者でした。高齢者では肺炎にかかる割合にかかわることがあります。また、肺炎をきっかけに身体機能や認知機能が低下すると、健康寿命（自分の身の回りのことが自身でできること）にも影響します。高齢者にとって肺炎予防はとても大切なことです。そのため、65歳になると肺炎球菌ワクチン（定期接種としてPPSV23）の接種が推奨されています。

Q 1度打てばいいの？（ワクチンの効果）

A PPSV23では接種から5年経過すると抗体の力が低下するため、5年後以降の再接種（任意接種、公費補助の対象外）が勧められています。PCV13（任意接種、公費補助の対象外）では免疫のはたらきが持続するので再接種の必要はありません。PPSV23とPCV13の両方を

接種しておくとかバーする範囲が広がり効果も持続させることができます。この場合1年以上間隔を空けます。

Q 65歳より若い人は打てないの？

A 65歳未満でも、60歳以上で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり日常生活活動が極度に制限される患者さんも定期接種の対象になります。

Q 高齢者の他にもワクチン接種をした方がいい人は？

A 糖尿病、心臓、肺、肝臓に病気がある人、がんなどで免疫力の低下している患者さんなどは、肺炎を併発すると重症になるリスクが高く接種が勧められます。



✉ 病気や医療に関する質問を受付けております。

千葉県医師会広報係まで 〒260-0026 千葉市中央区千葉港 4-1

※個別の病気につきましてのご質問には応じかねますので、ご了承ください。

